

平成30年度 南宮中学校 の基本計画

1. これまでの経過

本校には、これまで

- ・豊かな思考力・創造力を育てよう。
- ・思いやりと感動のできる心を育てよう。
- ・耐えてやりぬく実践力を育てよう。
- ・健康でたくましい身体を育てよう。

という学校教育目標が定められ、更にこれを具体化するという視点で平成13年度より、「目指す生徒像」から「目指す学校像」、そして「各学年の重点」等と多岐にわたる目標が据えられてきた。

また、本校は長年反社会的行動をとる生徒、そしてその周囲を取り巻く集団の形成により、本来の教育が実現されない現実があった。この間、先生方の努力により各学年・学級の様子は向上し、以前とは見違えるような状態になっている。そのような中で、今の本校の生徒を見つめなおし、これからの目指す生徒像から新たな目標また重点を据えていくこととなった。

2. 目指す生徒像と学校教育目標について

学習指導要領に示された、育てようとする姿は、以下のように列挙することができる。

- ・言語の力を使って、思考力、判断力、表現力を育む
- ・伝統や文化に関する理解を深める
- ・理数の力を育む
- ・外国語教育の充実を図る
- ・道徳教育を充実する
- ・体験活動を充実する
- ・健やかな体を育む
- ・社会の進展に対応する力を育む

また、中野市教育力向上プランは、『人・もの・こと』と関わりながら、学び合い、支え合い、未来を切り開くたくましい子ども』を目指す子ども像として掲げられており、平成30年度は特に信州型コミュニティスクールについて、地域と連携した学校支援体制の構築に向けて各学校の具体的な取り組みが求められている。

一方、平成29年度の学校自己評価からうかがえる学校および生徒の実態は以下のようなものである。

- ・「挨拶 清掃 歌声」の更なる向上を目指し、教職員と生徒が目指す姿を共通認識しながら、取り組む必要があること。「わかりやすく、メリハリのある授業」の中で、生徒同士が関わり合いながら、学びを深めていく授業を一層進めていくこと。「家庭学習を見直そう」を配付して家庭学習の充実を促したり、「家庭学習強調月間」を設けたりして、学習内容の定着を図っていくこと。成長期にある中学生の部活動のあり方を考え、どの生徒も達成感が持てる部活動を目指すこと。

また、保護者の希望・要望・感想は次のとおりである。

- ・安心して子どもを送り出せる学校であって欲しい
- ・信州型コミュニティスクールがスタートし「ふるさと中野」を知り地域と共に育つ学校で会って欲しい
- ・生徒の気持ちにより添い、一人ひとりのニーズに合った支援体制が欲しい
- ・学力や体力の向上に努めて欲しい

加えて、職員の力量向上として、教科担任はその時間の学級担任という意識をもち、学習のルールやマナーをつくることと、対等でない人間関係を見抜き、いじめの芽を摘むことが課題としてあげられる。また、障がい者差別解消法が平成28年度より施行されたことに伴って、日常の教育活動の中に特別支援教育の視点を大切にしていることが求められている。(H30年4月より通級指導教室)

以上の面から、学校運営の基本的な方向づけを次のように設定した。

[目指す生徒像]

- ・自信と思いやりを持ち、より豊かな集団の一員になろうとする生徒
- ・適切な判断ができ、行動する生徒
- ・目標をもち、ねばりづよく、創意工夫して解決にあたる生徒

[学校教育目標]

学び合い、鍛え合い、支え合い、共に高め合う生徒の育成

3. 具現化に向けて

上記のような見直しにより、学校運営改善の重点を設定した。

＜本年度の重点＞

○安心して学び合える学習集団づくり ○確かな学力や体力の向上

以上のような経過から、グランドデザインを据え、平成30年度南宮中学校の基本計画とする。